

電波新聞 2010年8月5日掲載記事

デジタルサイネージ／LED照明

東和メックスの取組み

老舗ベンチャー企業に変身チャレンジしている東和メックス（村田三郎会長兼社長）は、液晶とLEDディスプレイとケータイ端末を組み合わせたデジタルサイネージシステムやLED照明などに力を入れている。特にデジタルサイネージは、医療や観光関連マーケットで引き合いが強くなっている。村田会長兼社長に、これまでの取組と今後の展開を聞いた。

——デジタルサイネージへの取組みはいかがですか。

18年前から取り組む

村田会長兼社長 18年前、普及率ゼロのころ発売したLED表示機は、累計で約20万台となった。現在も年1万台を出荷し、中小型表示機ではトップシェアを続けている。今回のデジタルサイネージのヒットの源は「屋外」と「ケータイ」にある。また不況の現在、紙主体のチラシを電子化するコンセプトがヒットにつながった。

8月にシリーズ第2弾となる新製品「BRIDII」を発売する。液晶テレビにLEDバックライトを搭載し省エネを高め、さらに鮮明度も高めた。LED表示は、オシャレ度をさらに高める白色LEDを採用し、音量音質の良好な音声案内を付けた。多言語対応で外国人対応も可能にした。

——LED照明への取組みはいかがですか。

村田会長兼社長 店舗・医療・農業の業務用の開発販売を昨年度より始めた。今秋から総合省エネおよびセキュリティのシステム商材として、我々の得意分野である映像システムとLED表示機、およびソーラーシステムと防犯カメラを組み合わせたシステム商品をスタートする。

——今後の抱負をお聞かせください。

第2の中核事業に

村田会長兼社長 東和メックスは、人と環境に優しいグループ経営を目指している。この8月に株式会社オービカル（AUVICUL）を立ち上げる。資本金9800万円、本社は

東京。オービカルは「音と映像で文化を創るオーディオ・ビジュアル・カルチャーのイニシヤル造語」です。(株)オービカルはトレンドな環境・健康・観光の分野を、横にくし刺しした商材システムおよびソリューションを企画開発し、「共創」する企業と経営協業を広げ、クロスメディア時代にふさわしいICTベンチャー企業を目指す。

主力市場は、環境分野はLED商材を中心とした学校・道路などの官公需関連、健康分野は診療所・薬局、観光分野は医療観光。当初は日本からスタートして中国・韓国企業とアライアンスを行う。販売網の第2の中核事業会社に育てていく。これにより従来の「TOWA」ブランドと「AUVICUL」ブランドの2本立てで、多様化する普及率ゼロ市場にダイナミックチャレンジする。